

給食だより

2025年1月号
柏市学校給食センター

小学生のみなさんは
おうちの人と
よみましょう。



新年あけましておめでとうございます。

1～3月は今年度のまとめの時期となります。今の学年やクラスの仲間と一緒に給食を食べるのもあとわずかです。気持ちを新たに、健康第一で良い一年を過ごせるといいですね。

本年も、毎日の給食時間が楽しみになるような、魅力ある給食作りに努めていきたいと思います。



今年は巳(へび)年！

へびは獲物を丸のみで食べてしまいますが、みなさんは、よくかむことを意識してゆっくり味わって食べましょう。



1月24日～30日は、全国学校給食週間です！



日本の学校給食は、明治22年に山形県鶴岡町（現：鶴岡市）の私立忠愛小学校で提供されたのが始まりとされています。その後、各地に広まったものの、戦争による食料不足で中断されてしまいました。

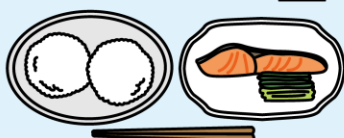
戦後、子どもたちの栄養不足を改善するため、アメリカの支援団体から給食用物資の寄贈を受けて、昭和22年1月から学校給食が再開されることになりました。前年の12月24日に、東京都内の小学校で給食用物資の贈呈式が行われたことから、この日を「学校給食感謝の日」としましたが、冬休みと重なってしまうため、後に1か月ずらした1月24日～30日までの1週間を「全国学校給食週間」とすることが定められました。

全国学校給食週間を通して、学校給食について興味を持ってもらい、学校給食についてあらためて考える機会になってほしいという願いがこめられています。



学校給食の移り変わりを見てみよう！

明治22年



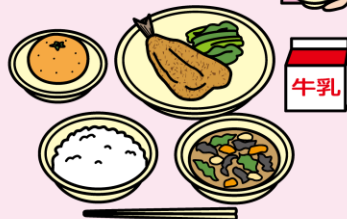
私立忠愛小学校で提供されたのは「おむすび」「塩鮭」「漬け物」でした。

戦後(昭和20～30年代)



支援物資の脱脂粉乳や缶詰、小麦粉などを使った給食。

現在



地域でとれる旬の食材を取り入れ、郷土料理や行事食、世界の料理など、食育の教材となる給食。

災害時の『食』を備えましょう

阪神・淡路大震災から 30 年

1995（平成7）年1月17日に、阪神・淡路大震災が発生しました。寒さ厳しい中、被災した多くの人たちを支えたのは、ボランティアによって届けられた炊き出しの「おむすび」です。震災発生から5年が過ぎた2000年、兵庫県が事務局を務める「ごはんを食べよう国民運動推進協議会」は、食料の重要性や、ボランティアの善意を忘れないよう、この日を「おむすびの日」と決めました※。

阪神・淡路大震災の発生から今年で30年となります。昨年元日に発生した令和6年能登半島地震が記憶に新しいですが、この30年の間にも各地で大きな災害が頻発しています。災害発生直後すぐには支援が届かないということを前提に、一人ひとりが自分の命は自分で守ることを意識し、普段から備えをしっかりとしておくことが大切です。

※2018（平成30）年に同協議会は解散、この取り組みは、公益社団法人米穀安定供給確保支援機構へ引き継がれています。



災害時の食の備え



★非常食・日常食品・持ち歩き用品の3つを備えておきましょう。水と熱源は必需品です。

そのまま食べられる

非常食



アルファ化米、缶詰、レトルト食品、菓子類など

ローリングストックで備える

日常食品



お米、乾麺、乾物、日持ちのする野菜・果物、調味料など

外出時の

持ち歩き用品



飲料水、チョコレート・あめなどの菓子

水は調理用も含めて1人1日3リットル必要とされています。できれば1週間分備えておくとう安心です。

1人1日3リットル



カセットコンロと専用ボンベがあれば、温かい料理も食べることができます。あらかじめ使い方を確認しておきましょう。



災害発生直後の食事

避難所などへ避難することもあるため、1日分の飲料水と非常食を、非常用持ち出し袋等に入れておきましょう。家で過ごす場合は、冷蔵庫・冷凍庫の中にある傷みやすいものから食べ始めると、食品を無駄にせずに済みます。



お気に入りのお菓子を入れておくと心のケアにもなりますよ



家庭で備蓄リストの作成を！

家族の好みや状況によって必要な物は異なります。家庭で備蓄リストを作成し、必要な物を準備しておきましょう。



赤ちゃん用ミルク、食物アレルギー対応食品、介護用食品など